※令和４年度以降入学生用

学校番号	1202

令和５年度　理科

教科	理科	科目	（学）理科入門	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	な　し						
副教材等	な　し						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校までで学んだ理科の内容から、高校で学ぶ理科への導入的な科目です。まずは、理科に興味を持ち、実際にグループ活動や実験を通じて触れ合うことで、理科に対する苦手意識を克服し、一つ一つの知識を積み重ねていけるように学習していきましょう。

２　学習の到達目標

①　中学校で学んだ理科に対する知識の復習を行い、高校の４分野における導入的な知識を身に付ける。
②　観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
③　自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

３　評価の観点及びその趣旨

	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	①中学生の時に修得した知識を再確認し、高校の科学分野への基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているかを評価する。 ②化学的または物理的な観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けているかを評価する。	①化学的・物理的な問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現しているかを評価する。 ②日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けていかどうかを評価する。	①授業中に教科書等の忘れ物をせず、積極的に発言しているかの姿勢を評価する。 ②観察や実験に自ら取り組み、科学事象に対して前向きに考察する姿勢を評価する。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	化学分野　《理科への興味を高める》	・元素記号について学びなおす。 ・ろ過操作、蒸留操作を実際に行わせる。混合物が分離される様子を観察させ、物質について関心を持たせる。	a: 何度も小テストを行い、元素記号への苦手意識を克服しようとする姿勢を評価する。また、実験プリントの記述内容や実験中の様子から、実験に求められる「観察」や「技能」の知識について評価する。 b:実験を通じて、科学的な技術を身に着けると同時に、実験結果から考察される事象を導き出す過程と解答を評価する。 c:授業中に積極的に発言ができているかどうか実験に積極的に取り組めているかどうかを評価する。	一学期期末考査 ・ 小テスト ・ 実験観察	授業プリント ・ 一学期期末考査 ・ 実験観察	授業プリント
二学期	化学分野　《まずきを克服し自信を高める》	・化学反応式を実際の現象と結び付けて学ぶ。 ・原子や電子配置について学び、ミクロの世界について興味を持たせる。 ・元素の周期表について学び、規則性について関心を持たせる。	a:化学反応式や電子配置など、基本的な化学的知識を認知し、問題を積極的に溶けている姿勢を評価する。 b: 実験を通じて、科学的な技術を身に着けると同時に、実験結果から考察される事象を導き出す過程と導き出した解答を評価する。 c: 授業中に積極的に発言ができているかどうか実験に積極的に取り組めているかどうかを評価する。	二学期期末考査 ・ 小テスト ・ 実験観察	授業プリント ・ 二学期期末考査 ・ 実験観察	授業プリント
三学期	物理分野　《高校理科へ向かう姿勢をつくる》	・オームの法則とそれに関わる諸量について学びなおす。 ・電気の学習を通し、数量操作や論理思考を訓練する。	a:オームの法則を理解するうえで必要な、単位変換から電気に対する物理的な知識まで、深く学習し、自ら問題に挑む姿勢を評価する。 b: 実験を通じて、科学的な技術を身に着けると同時に、実験結果から考察される事象を導き出す過程と導き出した解答を評価する。 c:授業中に積極的に発言ができているかどうか実験に積極的に取り組めているかどうかを評価する。	学年末考査 ・ 小テスト ・ 実験観察	学年末考査 ・ 授業プリント ・ 実験観察	授業プリント

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度